

令和3年度庄原市体力づくり研修会

開催日：令和4年1月18日（火） 開催場所：各校にてオンライン研修

参加者：体力づくり推進リーダー等

本市の児童生徒の実態を把握し、体育科・保健体育科の授業改善のポイント及び学校全体で取り組むための推進教師としての働きについて協議・演習することを通して、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する見通しをもつことができることを目的とし、研修会を行いました。

【講話・協議】「庄原市の体力及び運動に関する意識の実態について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 砂走 敏和

○庄原市の体力の実態について

- ・小中学校ともに、握力・50m走に全国平均と比較すると課題がある。
- ・全国的に見ても体力の低下傾向が見られ、本市においても同様の傾向が見られる。主な要因として、「運動時間の減少」「学習以外のスクリーンタイム(※)の増加」「肥満傾向の児童生徒の増加」が挙げられており、新型コロナウイルスの影響により拍車がかかっている。

(※) 平日一日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機などによる映像の視聴時間のこと

○庄原市の運動に関する意識の実態について

- ・「体育・保健体育科の授業は楽しい」について、肯定的回答は9割近くあるが学年が上がるにつれ減少傾向にある。

(調査結果の分析から考えたこと)

- ・ほめ合う場の設定 ・親子でできる運動の紹介 ・友達や先生のまねができるためのICTの活用
- ・運動が楽しいと思える授業準備 ・結果ではなく過程の評価 ・低学年段階での運動嫌いの減少 など

【報告】「学校全体で取り組む体力向上に向けて」

庄原市立総領中学校 教諭 井清 文香

○体力について

体力は、「運動するための体力」と「健康に生活するための体力」を総合的に調和のとれた育成を図ることが大切。また、体力観は時代とともに変遷しており、コロナ禍において「自分の体は自分で守る、知識と実践」が必要とされている。

○体力向上推進リーダーとしての役割について

ビジョン共有から実行までの「ゴール・ストーリー・タスク」の3つの「イメージの共有」を行う。

(報告の感想)

- ・どの活動においても、体力向上の視点をもつことが大切ということに共感できた。
- ・教職員全体での体力向上に関する意識の共有及び取組が必要である。
- ・体力を向上させることは学力向上にもつながるため、学習の中でも体力の大切さを伝えたい。 など

【講話・演習】「これからの体育科の指導の在り方について」

広島県教育委員会 豊かな心と身体育成課

学校体育係 指導主事 田中 卓志・森垣 雅俊

○体育に関する指導における現状と課題について

- ・これまで、「体力合計点における全国トップ県とのポイント差の縮小」を施策としていたが、今年度から、「児童生徒の生涯にわたる運動習慣の確立のため、運動やスポーツが好きな児童生徒の増加」とした。

○ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）の紹介

- ・ACPとは、子供が発達段階に応じて身に付けておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムである。

参考 URL：<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/>



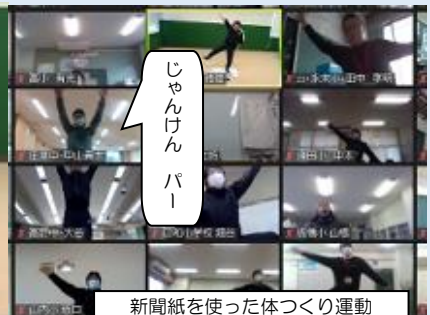
ボールを使った柔軟運動



風船を使ったボール運動



じゃんけん
グー



じゃんけん
パー

新聞紙を使った体づくり運動

(事後アンケートより)

- ・準備運動や単元の導入を、「楽しく」「簡単に」「運動量を多く」行うよう、授業改善していく。
- ・様々な道具を使って、楽しめる授業づくりにしていきたい。
- ・一部の職員だけでなく学校全体で体力づくりをしていく必要がある。具体的には、運動することが苦手な児童が「どこが苦手なのか」を把握し、対策をとっていきたい。